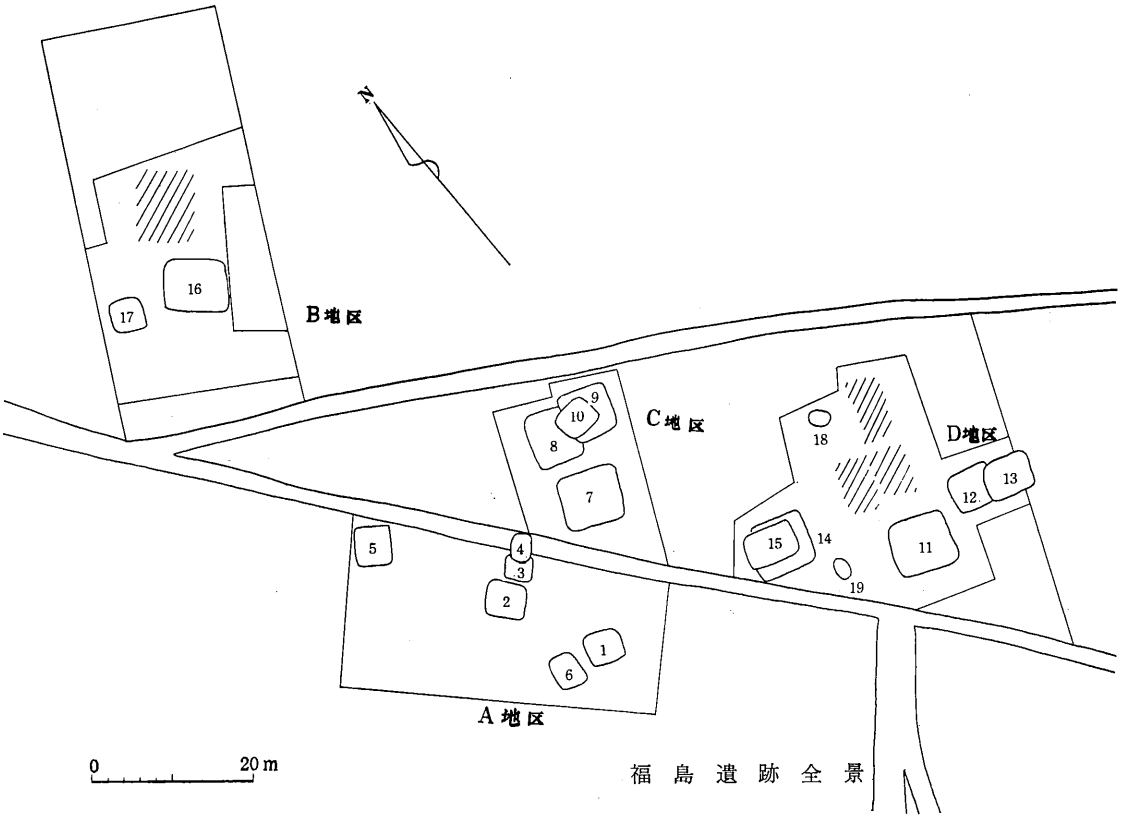
長野県伊那市

福島遺跡

緊急発掘調査概報



福島遺跡全景

目　　次

1　はしがき…… 3
2　発掘調査にあたって…… 4
3　発掘調査の経過…… 5
4　発掘調査……11
5　む す び……19

文責　小林重男（1.2.3）大川　清（4.5）

はしがき

長野県は埋蔵文化財の豊富なことで知られ，伊那谷がまたその宝庫であることはかねて専門家によって，あまねく世に紹介されているところであるが，時代の進運により産業開発の波が社会機構を大きく変貌させ，地方の農地造成開田事業としての活動が頻繁になるにつれ，地下の埋蔵文化財が緊急発掘を余儀なくされている。そのため伊那市においてはすでに御殿場遺跡の発掘調査についで，三ツ木遺跡の発掘調査を終り今回さらに福島遺跡の発掘を手がけた。福島遺跡は伊那市の北部，天竜川東岸の大字福島地区に発達した河岸段丘上下段に広く分布している。この度の発掘事業は都合により，そのうちの上段南部に位した1987，1991，1993，1994番地にあたる畑地20数アールに限った地域で行われた。この地はもともと水の便に恵まれず，従来畑作より致し方なかったのであるが，巨大な揚水機の開発によって，天竜川から大量の水を段丘上に導くことが可能となり，昭和41年上伊那郡伊那土地改良区（理事長清水国彦）によって65ヘクタールに及ぶ開田事業が計画されたのである。そして昭和42年秋の畑作物収穫直後にはブルトーザーが縦横に走りはじめるとのことであった。このため伊那市教育委員会は当該地区に含まれる貴重な埋蔵文化財の消滅をおそれ，緊急発掘調査による記録保存事業を計画した。事業の計画にあたっては長野県教育委員会文化財担当林茂樹指導主事の熱心な指導と助言を受け諸般の準備を進めた。

福島遺跡はすでに長野県埋蔵文化財包蔵地台帳に登載されて居り，包蔵物の内容は主として古墳時代及び歴史時代の集落跡である。したがって縄文，弥生時代に比し比較的新しい時代であるだけに，当時の農耕文化を知る上には極めて有力な資料が豊富に含まれている地域である。今回の発掘調査にあたって伊那市教育委員会は前回までの方法を変え，これを全面的に大学の研究室に委託して行なう方針のもとに林主事の御意見を伺ったところ同意を得た。そこで大学をどこにするかの斡旋及び決定を一切同主事に一任して進めた。その結果国士館大学に依頼することとなり同大学の大川清教授に委託することとなった。ところが補助金等助成事業に関係して国の意見もあり，最終的には伊那市教育委員会が事業の主体者であることには変りがないが，実質的には国士館大学による発掘調査であるということになった。以後後文に見られるような経過をたどって発掘調査は進められたが，事前調査によって予想された以上に，その包蔵地は広範で，発掘を予定した地域からさらに段丘添いに北の方面へ，さらには東部手良地区にわたる一大集落地跡であることをつきとめ，遺物には須恵器のほかにりっぱな灰釉陶器をみると同時に，鉄製品また焼けた鉄屑等の豊富なことが特徴づけられる等非常な成果があがった。その間文部省の埋蔵文化財担当亀井技官の視察があり，貴重な遺跡として今後の保存方につき熱心な御助言を賜わるほどであった。その間大川教授の精力的な努力と厳格な指導により同教授に引率された大学生男女14名の，文字通り土にまみれて炎熱下の疲れを知らぬ作業活動と，発掘に参加された地域の人々，小中学生，郡下の高校生，市内外の文化財関係者等の献身的な御協力，ことに大学発掘班が福島区の公会堂に宿泊したことから，区長松崎親助氏及び関係者のなみなみならぬ諸般の御協力を得たこと，また同地区三沢八郎開田委員長，土地所有者等の深い御理解と御助力に対し，教育委員会として深甚なる感謝の意を表わすものである。時あたかも酷暑の

候不便な野外での重労働でありながら一同何等の故障もなく，お互に楽しく作業に終始できて所期の目的を達し得たことを心から有難く思っている次第である。

発掘調査にあたって

昭和41年福島地区の農地造成開田事業計画が進むにつれ，同地区の埋蔵文化財発掘調査計画も具体的になり，第1に国及び県の補助金を仰ぎ国，県の助成事業として許可をとることができた。一方この発掘調査を進めていく本部の人的組織として次のような委員会及び調査団をもった。

福島遺跡発掘調査委員会

委員長	伊那市教育委員会	小林重男
委員	長野県文化財保護委員	向山雅重
	伊那市文化財審議委員長	有賀京一
	上伊那教育会長	松沢一美
	伊那土地改良区理事長	清水国彦
	伊那市文化財審議委員	松沢新右エ門
	〃	三沢三竿

同調査団

団長	国士館大学教授	大川清
団長補佐	長野県教育委員会指導主事	林茂樹
団員	上伊那郡宮田村	友野良一
	伊那市中央区	御子柴泰正
	伊那市西町	根津清志
	上伊那郡宮田村	太田保

事務局　春日社会教育課長，保坂係長，田中主事

7月17日，伊那市教育委員会において福島遺跡緊急発掘調査委員会を開き，林団長補佐の出席のもとに今後の調査に関する基本事項をきめその後現地に向かい表面調査をした。

7月19日，東京より団長大川教授の出席を得て再び現地の表面調査を行ない，調査の日時，方法，地域設定等具体的な取りきめを行った。この2回の調査によって問題になったことは，包蔵範囲が非常に広くかつ豊富であること，したがってもっともよい場所を選定し限られた日程で能率的に効果的に如何に実績をあげるかということであった。

7月27日，市教育委員会において調査委員会を開く。遺跡発掘計画について次の事項を確認する。遺跡

発掘調査委員会規定，工程仕様，発掘工程，工事費用概算，作業員の確保等，そのうち発掘工程を8月1日諸準備，同2日，3日トレンチ作業，同4日より本発掘作業とし，11日までの10日間ときめた。しかし実際には発掘調査の経過にみられるように，はじめ予定しなかったブルトーザーの力を借りるなど作業量のぼう大なため，この発掘工程は変更を余儀なくされ，お盆の14日，15日を休み延15日を要して8月17日に終了した。

発掘調査の経過

8月1日　火曜日　晴

午後1時20分国士館大学大川清教授，並に国士館大学生9名福島公民館に到着，遺跡発掘予定地「ニガナ窪」の現地下見，ダンプカー1台，ライトバン1台にて発掘諸材料の運搬作業，発掘地を第1候補地の「ニガナ窪」に決定する。

発掘地南側山林内に本部並に休憩所の幕舎を4張り造る。林道に飯台を設置する。林道，農道のヤブ切り作業，迂回路，標識板，発掘現場案内板4を設置する。

午後5時40分，松崎区長宅において明2日より発掘作業に伴う打合せを行う。市役所で準備したもの以外次の物を備えること，ポリバケツ2，ポリ洗面器2，ヒシャク2，ナタ1，平板3，レベル1，パネル2，スコップ20，カーペット3尺×4間もの2枚。

昼食は，公民館で「ニギリ飯」1人大2，味噌汁を作り現地まで運搬すること。

臨時電話機の設置，自動車1台チャーターすること。イス5，机2，竹箕10，ポリエチレン袋1,000枚

出席者

調査委員会　小林委員長，有賀副委員長，三沢委員

福島区　松崎区長，松崎区長代理，三沢土地改良理事長

伊那北小学校　胡桃沢校長

市教育委員会　春日課長，保坂係長，三沢主任，有賀主事，田中主事，北沢主任，安藤技師，

給食係　松崎しげ子，小口ゆき　　計26名

8月2日　水曜日　晴

作業第1日　始業午前9時　終業午後5時

A地区　地番362地主藤田覚，耕作者三沢淳

大川団長の指示により1号，2号，3号，4号4本のトレンチ設定，直ちに学生によるトレンチ杭打ちを行う。

第1号トレンチ　L36.3m，W1m，H25cm

第2号トレンチ　L36.3m，W1m，H32cm

第3号トレンチ　L36.3m，W1m，H25cm

第4号トレンチ　L36.3m，W1m，H30cm

各トレンチの間隔3m

第1号，第2号，第3号，トレンチ発掘作業，竪穴住居跡4発見，確認されたので，それぞれ竪穴の発掘作業を急ぐ。

第4号トレンチ発掘作業

第1号，第2号，第3号，竪穴住居跡より土師器，須恵器特に灰釉陶器片無数に出土した。第5号住居跡よりは，鋤の根本と思われる破片1，刀子1，鉄製紡錘車が検出され特に紡錘車は，全国に数個しかない珍品，（大川教授談）で一同歓声を上げる。

午後4時臨時電話架設完了する。

本日の大成果を歓びあい作業第1日を終る。

出席者

調査委員会　小林委員長，有賀副委員長，三沢委員

福島区　松崎区長，松崎区長代理，三沢土地改良理事長，弾塚邦武

赤穂高校　北原先生，堀内芳明，北原重俊，下平秀美小出文雄

東部中　三沢真一，小口繁徳，三沢友美，三沢実，三沢春夫，宮島喜代人，藤田博寿

西箕輪中　酒井教諭

伊那北小　胡桃沢校長，松崎清太郎

一　般　唐沢保（大学生）

市教育委員会　春日課長，保坂係長，三沢主任，矢沢主事，酒井主事，田中主事，山崎富士男，北沢主任

給食係　金子良子，小口ゆき　　計45名

8月3日　木曜日　晴

作業第2日　始業午前8時30分，終業午後5時30分

電話本日より通話可能，事務，作業連絡上好都合

A地区

第1号，第2号，第3号，第4号，第5号竪穴住居跡壁，床面整理作業行う。第1号住居跡清掃し，測量をはじめる。第3号住居跡より土師器ほぼ完形品1，須恵器ほぼ完形品2，刀子1，釘1，灰釉陶器数片出土する。第5号住居跡より刀子1，土錘2その他灰釉陶器数片出土する。

C地区　地番361，地主三沢初男，耕作者三沢多

A地区の見透しがついたので北側のC地区を発掘地として，第1，第2，第3トレンチ設定する。

第1号トレンチ　L22.4m，W1m，H62cm

第2号トレンチ　L21.1m，W1m，H50cm

第3号トレンチ　L17.4m，W1m，H46cm

各トレンチの間隔3m

第1号，第2号，第3号の3本のトレンチとも土師器，須恵器の破片が多く出土した。

第1号トレンチ　土錘1，第2号トレンチ土錘1，鉄製の鋤破片が出土した。

出席者

調査委員会　小林委員長，三沢委員，松沢委員

視　　察　市議会六波羅文教厚生委員長，三沢孔文先生

福島区　松崎区長，松崎区長代理，三沢土地改良理事長

赤穂高校　織井一男，伊藤安，山本恭子

辰野高校　渋谷明

東部中　藤田博寿，宮島喜代人，三沢春雄，三沢実三沢友美，小口繁徳，三沢真一，三沢隆，北原明人井口哲雄，池上克彦

伊那北小　井口秀明，松崎敏彦

西箕輪中　酒井教諭，春日照海，藪原直，林宗継，桐野洋一，唐沢博，有賀正，有賀長正，清水幸春，清水三男

一　　般　唐沢保（大学生），井口昭久（大学生）有賀一之（高校生）

市教育委員会　春日課長，保坂係長，三沢主任，矢沢主事，酒井主事，田中主事，山崎富士男，大野田技師

給食係　金子良子，小口ゆき　　計60名

8月4日　金曜日　晴

作業第3日　始業午前8時30分，終業午後5時

A地区

第1号住居跡　床面壁出し清掃測量作業，刀子1，須恵器，ほぼ完形で出土する。

第2号住居跡　測量作業実施

第3号住居跡　床面清掃測量

第4号住居跡　床面清掃測量

第5号住居跡　床面の露出と壁の清掃作業

C地区

第1号，第2号，第3号トレンチ拡張発掘，非常に深い所にローム層があり，作業が難行して能率があがらない。午後2時30分，市のブルトーザー到着，ローム層まで掘りさげる。

D地区　地番360，地主三沢初男，耕作者三沢多（カンラン畑）

ブルードーザーによるローム層まで全面発掘する。南北41m，東西6m

出席者

調査団　林団長補佐（県教委）

福島区　松崎区長，三沢土地改良理事長

赤穂高校　片桐哲，織井憲文

辰野高校　渋谷明

東部中　宮島喜代人，井口哲雄，松崎光彦，北原久義，池上克彦，藤田博寿，北原明人，三沢隆

伊那北小　松崎敏彦，井口明，井口一夫，松崎泉，三沢秀一，北原一良，三沢博文

西箕輪中　酒井教諭，唐沢武夫，唐沢博，有賀長生，清水幸春，清水三男

一　　般　唐沢保（大学生），有賀一六（高校生）

市教育委員会　春日課長，保坂係長，田中主事，矢沢主事，酒井主事，渋谷技師

給食係　金子良子，小口ゆき　　計49名

8月5日　土曜日　晴

作業第4日　始業午前8時30分，終業午後5時

本日より早稲田大学，鈴木，中司両君参加する。

A地区

第1号住居跡測量

第4号住居跡測量

第5号住居跡測量

B地区　地番369地主三沢文雄，耕作者三沢淳（ライ麦畑）

午前中ブルドーザーにて，ローム層まで全面発掘する。南北51.2m，東西21.72m，午後一輪車にて土の移動作業

D地区

ブルドーザー発掘の後を巾1mのトレンチ4本を3m間隔に設定する。約20cmほどでローム層に達する。掘土を一輪車にて搬出作業，午後になりぞくぞく住居跡を発見，なお更に高床建築遺構と思われる堀り込みを発見する。

手良台地から福島台地一帯標高721.8m地点水準測量を行う。

C地区

現在までの盛土をブルドーザーにて土の移動並びにトレンチの拡大ローム層まで表土をはぐ。写真撮影用のヤグラの柱4本，パネル2枚宮下建設より借用，市のトラックにて現場へ運搬。

大川団長午後11時10分の夜行にて栃木県佐野市の遺跡現場へ直行された。

出席者

調査委員会　有賀副委員長　三沢委員

調査団　御子柴委員

視　　察　高木社教委員長

福島区　松崎区長，三沢土地改良理事長

赤穂高校　片桐哲，織井憲文，北原重敏，下平秀美

東部中　井口哲雄，藤田博文，三沢隆，松崎光彦，三沢実，小口繁徳，三沢貞一，三沢友美，北原明人池上克彦，三沢春夫

伊那北小　松崎泉，三沢博文，菊地茂

一　　般　唐沢保（大学生）

市教育委員会　春日課長，保坂係長，三沢主任，有賀主事，矢沢主事，田中主事，北沢主任，稲村技師

給食係　金子良子，小口ゆき　　計　49名

8月6日　日曜日　晴

作業第五日　始業午前8時30分，終業午後5時

ABCD全地区測量を行う。

C地区　第9号住居跡の発掘にとりかかり一輪車にて土の移動運搬作業を行う。

D地区　全面発掘作業，一輪車6台にて，土の移動作業を行う。

出席者

調査委員会　小林委員長

視　　察　岡谷市小口氏，飯島文化財審議委員

赤穂高校　千村節子，岡庭静志，福原あさえ

東部中　井口明，三沢博文，三沢友美，北原明人，小口繁徳，三沢真一，三沢実，北原久義，三沢隆

伊那北小　井口哲雄，唐木政範

一　　般　唐沢保（大学生）

市教育委員会　春日課長，保坂係長，中村館長，井口係長，三沢主任，田中主事，城倉初子

給食係　金子良子，小口ゆき　　計40名

8月7日　月曜日　晴

作業第6日　始業午前8時30分，終業午後5時

C地区

昨日に引き続き第6号住居跡を掘り下げ床面を出す，西壁の片すみに須恵器片，土師器片と石が多数かたまって検出された。鉄斧1，土錘2出土する。西側の盛土をブルドーザーにて移動させる。

D地区

カンラン苗三分の一移植し，そのあと東側を2mブルドーザーにて表土をはぐ。各住居跡整理作業を行う。

大川団長佐野市より帰伊

大川団長，小林委員長関係者打合せを行い発掘終了が12日であるから，これ以上手を拡げずB，D地区に重点をおき発掘を急ぐ事にする。

連日の猛暑で作業員も疲労甚だしく能率低下，昼休みも1時間を1時間30分に延ばす。飲料水は1日1石近く消費し，水運搬に汗だく。

出席者

調査委員会　小林委員長

福島区　松崎区長，松崎区長代理，三沢土地改良理事長

赤穂高校　齋藤敏実，北原重政，堀内芳明，唐沢明男下平秀美

東 部 中　三沢友美，小口繁徳，三沢真一，北原明人
北原久美，唐木正範，三沢隆
伊那北小　塩沢教頭，三沢明美，三沢博文，井口明
市教育委員会　春日課長，保坂係長，村山主任，白鳥主事，伊藤主事，米山主事，林主事，松沢主事，田中主事，城倉初子，渋谷技師
給 食 係　金子良子，小口ゆき　　計47名

8 月 8 日　火曜日　晴

作業第７日　始業午前８時30分，終業午後５時

C地区

第６号住居跡清掃作業を行う。土錘，須恵器，土師器片，青銅製品出土する。

D地区

西側の盛土をブルドーザーにて移動させる。住居跡の表土はぎ並に一輪車にて土の運搬作業。住居跡３並びに高床遺構５（倉庫跡）発掘作業。

太田委員ブドー１箱，トマト１箱陣中見舞持参応援のため来場。

公民館長，主事応援多数来場能率あがる。

出 席 者

調査委員会　三沢委員，松沢委員
調 査 団　御子柴恭正委員，太田保委員
福 島 区　松崎区長
視　　察　池上文化財審議委員
赤穂高校　清水啓子，千村節子，上久保いつ子，滝沢みさ子，佐藤伊久子，下平陽子
箕輪工高校　小林雄造，春日光徳
天竜高校　三沢君子
一　　般　唐沢保（大学生），村山（オリンパス）
東 部 中　北原明人，北原久義，三沢隆
伊那北小　胡桃沢校長，松崎泉，井口明，　唐木絹代金子洋美，三沢博文，平沢正澄
市教育委員会　春日課長，保坂係長，倉田館長，登内館長，北原館長，村山主任，白鳥主事，伊藤主事，米山主事，林主事，田中主事，山崎富土男，城倉初子，北沢主任
給 食 係　金子良子，小口ゆき　　計57名

8 月 9 日　水曜日　晴

作業第８日　始業午前８時30分，終業午後９時

B地区

巾１ｍのトレンチ５本を３ｍおきに設定する。トレンチ南方堀形群発見追求する。高床遺構３（倉庫跡）住居跡３を発見する。発掘すれば次々と住居跡，高床遺構の跡を見，福島遺跡の規模の壮大さに，ただただ驚くばかり。

今回の遺跡発掘につくづく作業員の不足を嘆く，昨日部落内に有線放送で呼びかけ，作業員の動員をお願いし，作業の能率を図る。

C地区

各住居跡清掃，測量を行い写真撮影，特に第９号住居跡は家屋焼失，柱，タル木が焼け残りそのまま木炭のようになっている。これは実にみごとなものである。釘１本，墨書土師器，その他土師，須恵器の破片多数出土する。

D地区

ヤグラを使用写真撮影，高床遺構清掃作業を行う。

出 席 者

調査委員会　小林委員長
調 査 団　林団長補佐
視　　察　青木伊那教育事務所長，武井主事，伊藤伊那市収入役，林毎日支局長，根津産経支局長，田中南日支局長，大谷中日記者，春日伊那毎記者
一　　般　唐沢保，今村庄司，松崎公子，松沢勝彦，平沢雄一郎
長野高校　松崎やすみ，三沢博子，三沢英子
箕輪工高校　小林雄造　春日光徳
伊那女子高校　藤田由美子
東 部 中　松崎光彦，小口繁徳，三沢友美，三沢隆，北原明人，井口善夫，北原久義，三沢真一，三沢実
伊那北小　胡桃沢校長，井口睦子，三沢明美，金子洋美，唐木絹代，平沢正澄，平沢利彦，松崎泉，北原一良，井口明，三沢博文
市教育委員会　春日課長，保坂係長，田畑館長，伊藤主事，白鳥主事，名和主事，松沢主事，矢沢主事，酒井主事，田中主事，山崎富土男，城倉初子，北沢主任
給 食 係　金子良子，小口ゆき　　計63名

8 月10日　木曜日　晴

作業第9日　始業午前8時30分，終業午後5時

B地区

昨日に引継き，カマド附近の床面を出す作業，住居跡と高床遺構とが重複している。16号住居跡よりピンセット様の鉄製品が出土する。

C地区

第9号住居跡の壁を出し，床面を求める。

茅葺の萱か床面に敷いたワラか不明であるが出て来た。灰釉の破片，鉄の焼けただれた物が出土した。ピット内の焼材の写真撮影

D地区

南西の住居跡2発見，発掘作業並びに一輪車により土運搬，鉄製斧1，土錘3，土師，須恵器，灰釉陶器片出土。

出 席 者

調査委員会　小林委員長

調 査 団　林団長補佐（岡谷市より本省亀井技官と同行）

視　　察　文部省亀井技官，上智大学八幡一郎教授，松本県ケ丘高校樋口昇一教諭，岡谷市社教課長，同社教係長

福 島 区　松崎区長

一　　般　唐沢保，三沢美登，松崎明正，三沢イヅミ三沢とし子，三沢登喜子，松崎勝彦，井口文明，松崎公子

箕輪工高校　春日光徳，井口昌一，松崎晃

東 部 中　松崎光彦，三沢隆，三沢友美，北原明人，北原久義，伊藤輝幸，三沢実，三沢真一，原富男，山岸茂

伊那北小　井口睦子，三沢明美，松崎泉，三沢博文，平沢正澄，平沢利彦，金子洋美，唐木絹代，宮下誠小松明，井口秀昭，三沢春明

市教育委員会　春日課長，保坂係長，矢沢主事，酒井主事，田中主事，山崎富士男，渋谷技師

給 食 係　金子良子，小口ゆき　　計61名

8 月11日　金曜日　晴

作業第10日　始業午前8時30分，終業午後5時

B地区

各住居跡，高床遺構の清掃作業を行う。刀子1，鉄のかたまり，土師器，須恵器出土する。

C地区

竪穴の発掘作業も終り実測並に写真撮影。

D地区

第11号跡の掘下げ床出し作業，高床遺構（倉庫）6の整理，刀子1，鉄製鎌1，土師，須恵器，灰釉陶器，土錘出土する。

文部省亀井技官が昨日に引続き来場，市長も来場され，大川団長外関係者と保存について打合せを行う。大規模の遺跡であり是非市で土地を買収して，保存してほしいとの要請が亀井技官，大川団長，県林主事等より強く出された。市長も考慮を約す。目標の10日間は過ぎたが作業員の不足に加えて暑さのため思ったより仕事がおくれ未完成の部分があるので13日まで続行することに決めた。

出 席 者

調査委員会　小林委員長，三沢委員

調 査 団　林団長補佐

視　　察　文部省亀井技官，田畑市長，河西清光，桐原健，宮坂光昭

一　　般　唐沢保，松崎公子

赤穂高校　上久保いつ子，滝沢みさ子，宮崎幸子，宮崎信子，古根ちえ子，高柳栄子，堀内芳明，堺沢洋治

箕輪工高校　春日光徳，井口昌一，松崎晃

東 部 中　松崎光彦，伊東輝，伊藤清広，北原明人，三沢友美，小口繁徳，井口善夫，三沢実，三沢隆，原富男，三沢真一

伊那北小　松崎泉，三沢明美，井口睦子，宮下誠，平沢正澄，平沢利彦，唐木絹代，金子洋美，三沢博文

市教育委員会　春日課長，保坂係長，中村館長，倉田館長，北原館長，鈴木館長，辰野館長，村山主任，白鳥主事，伊藤主事，名和主事，米山主事，林主事松沢主事，矢沢主事，酒井主事，田中主事，山崎富士男，渋谷技師，坂田主事，城倉初子

給 食 係　金子良子，小口ゆき　　計72名

8 月12日　土曜日　晴

作業第11日　始業午前8時30分，終業午後5時

B地区

住居跡並に高床遺構の清掃作業

C地区

第9号住居跡測量

D地区

第11号　第14号住居跡床面整理

各高床遺構の測量

地元福島区内に有線放送で発掘の説明をするので希望者は現場に来て聴くように流したところ42名の聴取者があり大川団長の説明を聴く。午後1時10分から2時までおこなった。

明日から盆に入るため地元の方々や生徒は本日限りで作業は中止する。

出 席 者

調査委員会　小林委員長

視　　察　白鳥副議長，井上総務副委員長

福 島 区　松崎区長

一　　般　唐沢保，弾塚邦武

東 部 中　松崎光彦，山岸茂，三沢実，井口善夫

伊那北小　三沢博文

市教育委員会　春日課長，保坂係長，田中主事，北沢主任

給 食 係　小口ゆき　　計　25名

8 月13日　日曜日　曇のち雨

作業第12日　始業午前8時30分，終業午後6時

待ちわびていた待望の雨が来た。これ以上雨がないと散水して写真をと思っていたが有難い雨だ。今少し早く一雨くると良かったのだが，

今日から盆に入ったので地元の作業員の方々は見えないため大学生と市の職員だけだ。

B地区，C地区とも雨間を見て測量を行い，D地区は清掃作業を実施した。

大川団長午前11時17分伊那市駅発にて帰京する。

出 席 者

福 島 区　松崎区長

一　　般　松崎公子

市教育委員会　保坂係長，田中主事，渋谷技師

給 食 係　小口ゆき　　計17名

8 月14日　月曜日　曇のち雨

作業第13日　始業午前9時30分，終業午後7時

朝7時30分頃までひどい雨だった。9時頃雨も小降りになったので現場へ行く。

B地区第16号，第17号住居跡の測量実施，C地区第9号住居跡の測量実施，一部D地区周溝を掘り他は測量をする。

予定日を過ぎても間に合わないので学生は暗くなるまで作業をし宿舎の公民館に帰って来ると7時40分頃，風呂に入って夕食は8時過ぎ，それに本日の図面，日誌等整理すればいつも10時過ぎという大車輪ぶりである。

出 席 者

福 島 区　松崎区長

市教育委員会　保坂係長，田中主事

給 食 係　小口ゆき　　計14名

8 月15日　火曜日　曇

作業第14日　始業午前9時，終業午後7時

A，B，C，D各地区ヤグラにて写真撮影

B地区第16号第17号住居跡の実測

C地区第9号住居跡，D地区第11号，第15号の実測

出 席 者

福島区　松崎区長

一　　般　唐沢保

市教育委員会　保坂係長，田中主事，田畑技師

給 食 係　小口ゆき　　計15名

8 月16日　水曜日　晴

作業第15日　始業午前8時，終業午後7時

B地区清掃の後，写真撮影

D地区

写真撮影用のヤグラの取りこわし，その他諸材料をトラックにて搬出それぞれ返品する。スコップ，草かき，一輪車返納

松崎区長宅にて備用品のお礼等について打合せを行い関係者に支払いする。

出 席 者

調査委員会　小林委員長

福 島 区　松崎区長

市教育委員会　春日課長，保坂係長，三沢主任，有賀主事，田中主事，北沢主任，登内技師

給 食 係　小口ゆき　　計19名

8 月17日　木曜日　晴

大川団長佐野市より学生５名を連れ朝来伊遺物の梱包作業を行う。リンゴ箱９，ダンボール箱３，計12梱包

午後２時30分大川団長外学生帰京

出 席 者

調査委員会　小林委員長

市教育委員会　春日課長，保坂係長，三沢主任，

田中主事，渋谷技師　　計21名

調査補助員

石田雅樹，花岡尚美，今泉　功，原伸滋，田中幸雄

石山勇一，戸田有二，高橋章，阿部峻六，福田恭子

上出栄子，西本三平（国士舘大学）鈴木一和雄，

中司照世（早稲田大学）

発　掘　調　査

発掘地点は３カ所を当所予定していたが第１地点のみで調査を打ち切らざるを得なかった。

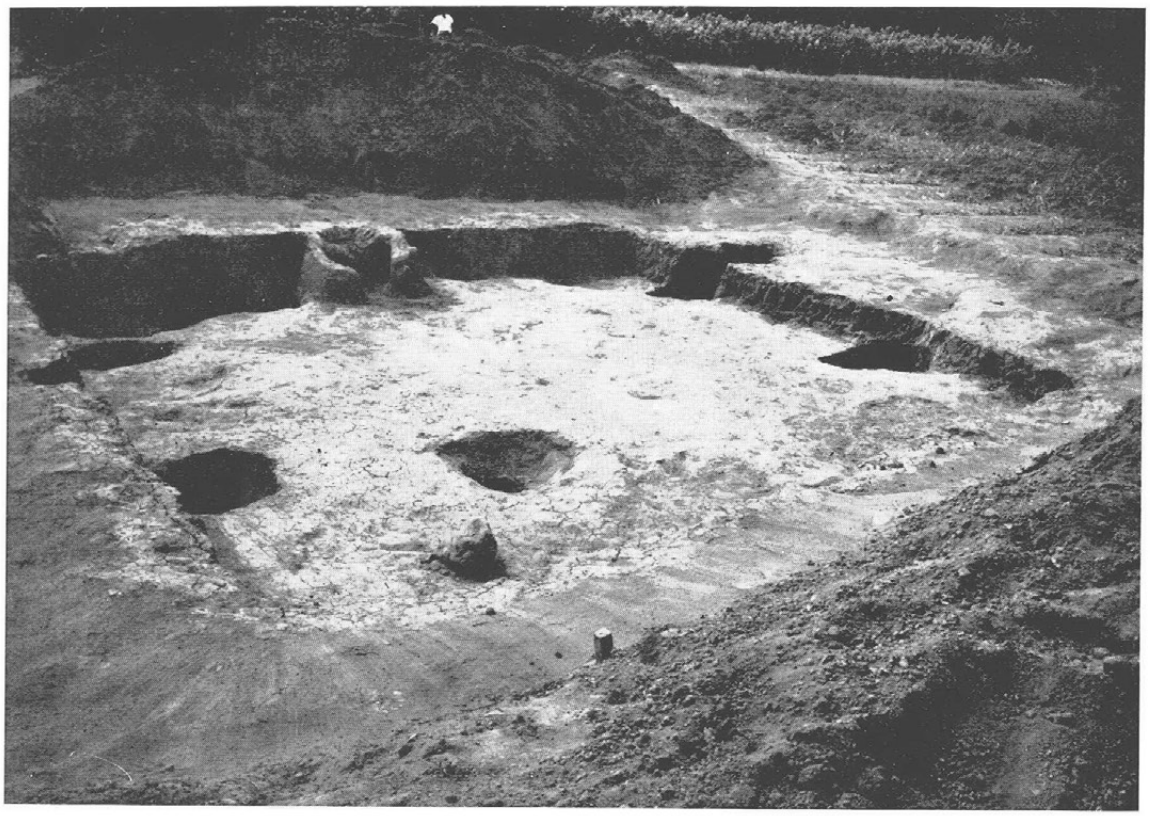
第１地点は福島段丘の南西端に近い一角とし，続いて第２地点はそれよりも北東300 m附近，更に北東200 m附近を第３地点にした。各予定地点は何れも天竜川に臨む段丘端に比較的近く，段丘中央部から更に奥まった手良（てら）部落地区については候補地から除外した。

第１地点については農作物の関係から休閑地又は植付前，収穫後の農地を発掘したもので互いに隣接する４地区に分けた。すなわちＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ地区とした。この４地区においてはそれぞれ，竪穴式住居跡を発掘，ことにＢ地区とＤ地区では掘形によって柱を建てた建造物跡数棟分を発掘した。以下，それぞれの地区について概説する。

福島区「しも」部落から段丘上へ通ずる農道は段丘上に登りつめると，段丘端に沿ってあるカラマツ林と畑との境附近を手良部落方面に通ずる。此の農道が分岐して２本あり，北側の道路をＡ路，南寄りの道路をＢ路と仮称する。

Ｂ路の南側をＡ地区。Ｂ路の北側でＡ路の南側，つまりＡ・Ｂ路にはさまれたＡ地区の北側をＣ地区。Ａ・Ｂ路の分岐点よりＡ路の北側をＢ地区。Ｃ地区の東側に隣接したＡ路とＢ路にはさまれた地域がＤ地区である。Ｃ地区とＤ地区の中間には発掘土を積み上げたためその地域の状態は不明であった。

Ａ地区は40×20ｍの範囲を発掘し，重複住居を含めて六軒の竪穴式住居跡を確認した。各竪穴住居跡の大きさとカマドの位置について表記する。（方向については磁石の正位置ではなく，東側としたものは東南東であり記述の関係上，東・西と云う表現とした。）



A 地区5号住居跡

No.	四　壁　長（約m）	形　状	主柱数	カマド方位
1	4.0 × 4.0	方　形	6	東（中　央）
2	4.5 × 4.3	方　形	不　明	西（南　寄）
3	2.1 × 3.3	方　形	不　明	西（中　央）
4	2.8 × 4.2	長方形	不　明	西（中　央）
5	4.4 × 4.4	方　形	4	東（中　央）
6	(2.8×3.5)×(3.8×3.6)	台　形	不　明	東（中　央）

以上のように，1,2,5号跡が大きく他は若干小さい。

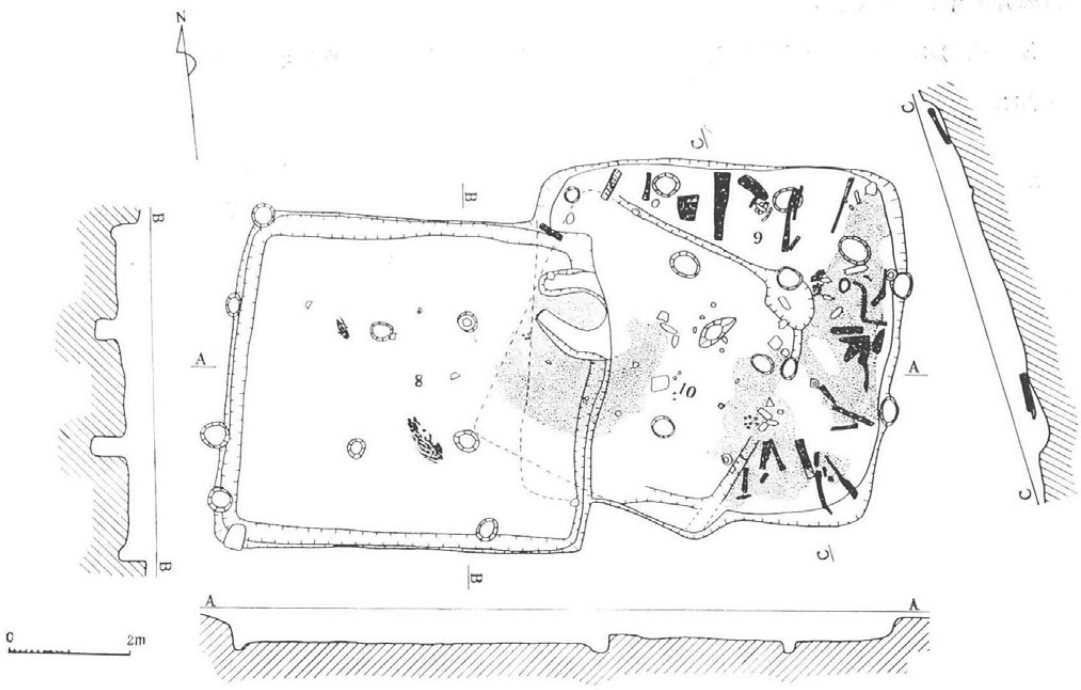
2号跡は最初3.2×3,3m程度の面積で，その西側壁中央にカマドを設けてあったが，のち北側と東側の拡張を行ったものである。

3号跡は2号跡に隣接北側に建てられたもので，2号跡拡張前とほぼ類似の面積をもったものであったが，のち4号が建てられた。

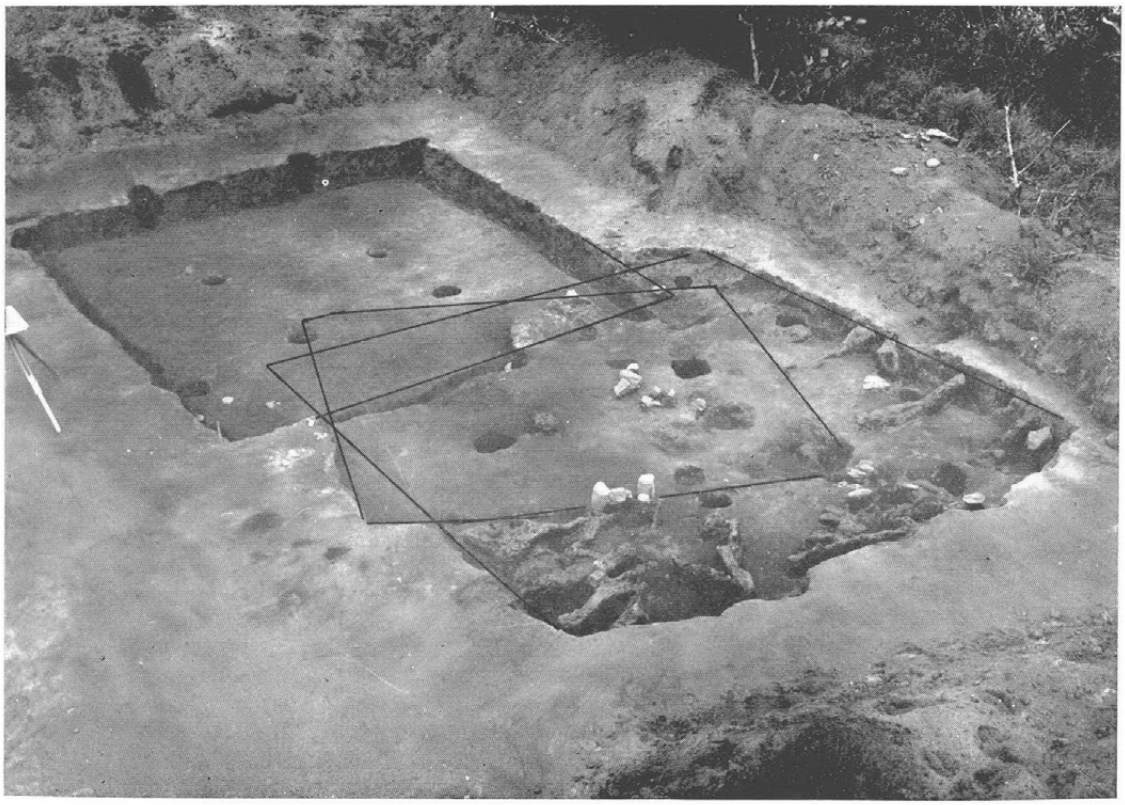
6号跡は地山が傾斜しているためと耕作により南側の壁は明瞭を欠き，さらに平面形も不正方形で台形を呈するものであった。

カマドは石を心として形を整え，その外側（上面）を粘土で上塗りしたものであった。

遺物は1号跡から土師器，須恵器のほか刀子，2号跡は土師器，須恵器，刀子，3号跡は土師器，須恵器のほか刀子，5号跡からは土師器，須恵器のほか刀子，5号跡から，鉄製紡錘車6号跡からは土師器，



C 地区 8, 9, 10 号住居跡実測図



C 地区 8, 9, 10 号住居跡

須恵器片若干を発見した。

B地区は20×33mの範囲を発掘し，2軒の住居跡と9棟分以上の掘立柱の建造物跡を確認した。住居跡2軒は

No.	四　壁　長（約m）	形　状	主柱数	カマド方位
16	5.7 × 7.0	長方形	4	西（中　央）
17	3,5 × 3,5	方　形	不　明	東（北　寄）

であった

掘立柱の建造物跡は16号住居跡の南に2棟（4,5号），16号跡上に3号，1号さらに北に2号，6.7,8,9号跡があったこれらの建造物跡の大きさについて以下計測値を表示する。

No.	桁　　行		梁　　間	
1	3　間	約　21　尺	2　間	約　14　尺
2	3　間	約　25　尺	2　間	約　15　尺
3	2　間	約　15　尺	1　間	約　7.5　尺
4	2　間	約　11　尺	1　間	約　9.0　尺
5	2間以上	1間約8尺	2　間	約　14　尺
6	2間以上	1間約7尺	2　間	約　14　尺
7	2間以上	不　　明	2　間	約　15　尺
8	2間以上	1間約5.5尺	2　間	約　14　尺
9	2間以上	1間約7尺	1　間	約　9.2　尺

以上のうちで一応建造物としてまとまるものは1,2,3,4号跡で，他は未発掘地区へ延びているため計測値の表示以上は明言し得ない。

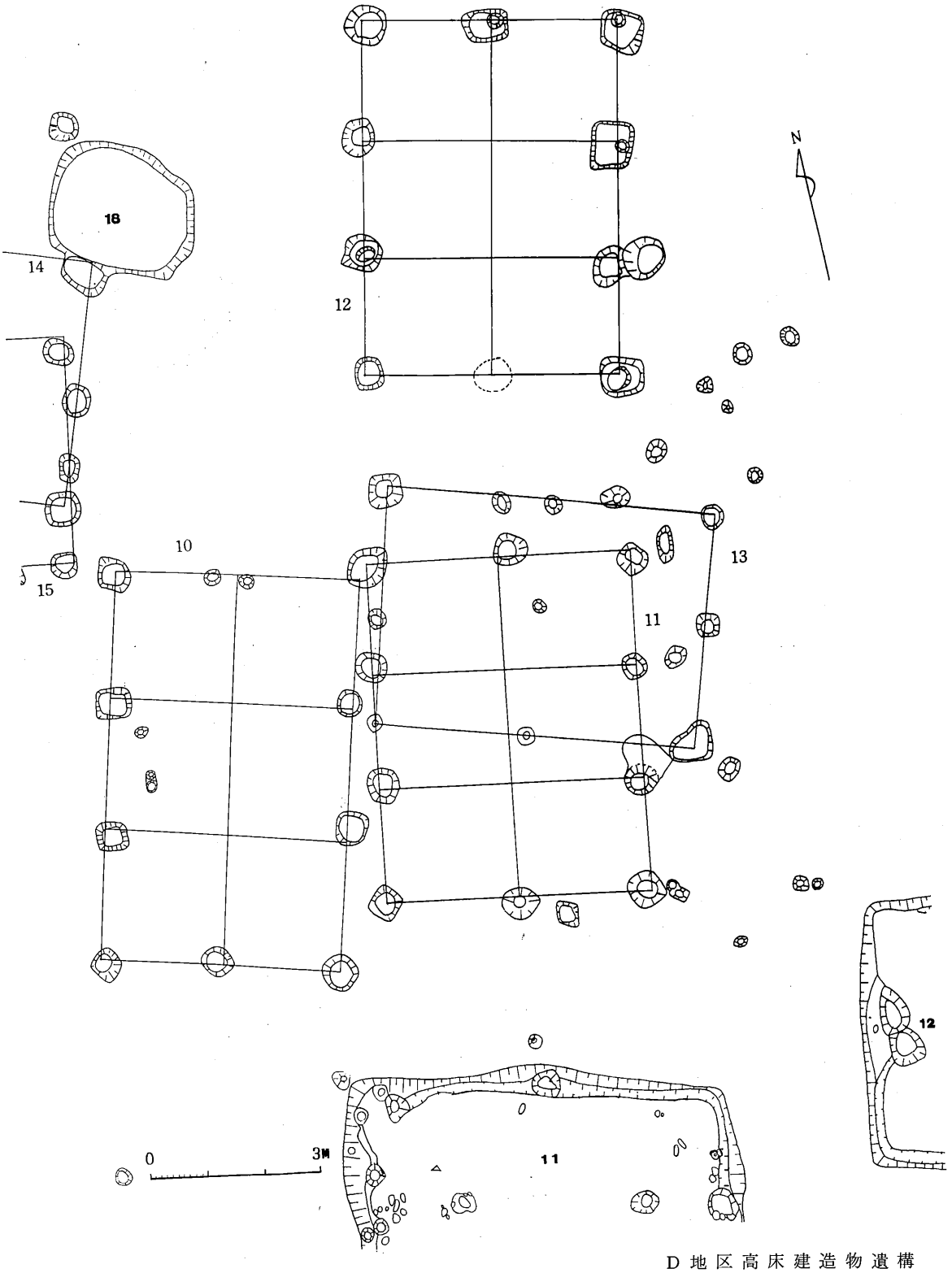
遺物は16号住居跡のカマドに土師器片が多数遺存していた。カマドの右側に坏形土師器の完形品が1個，鉄製品1個。17号住居跡のカマドは東に寄り，小さな住居の居住面積を有効にしている。このカマドの近くには坏型土師器が三枚重ねられ，さらに数個遺存し，なかに1個墨書文字のみられる坏型土師器があった。

此の2軒の住居跡のカマドは，いづれも心に石を用いていた。

C地区は16×25mの範囲を発掘し，4軒の住居跡と掘立柱の建造物跡若干を確認した。住居跡4軒のうち，3軒は重複したものであった。

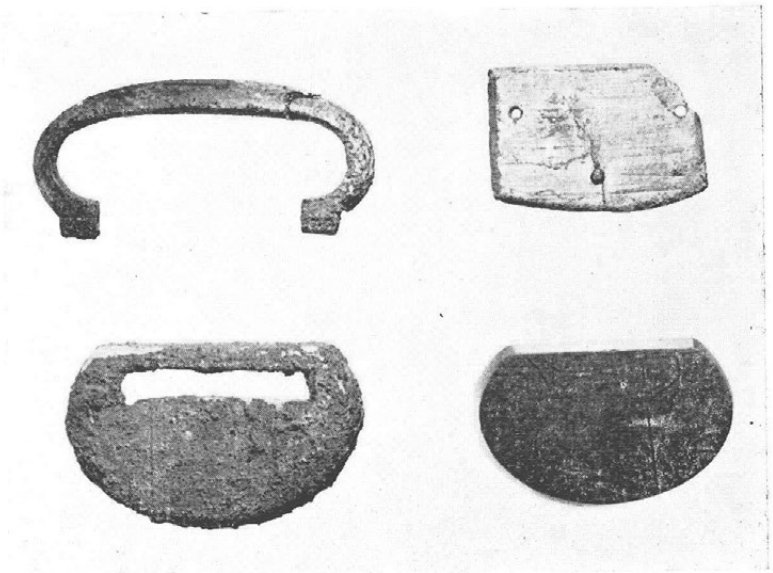
No.	四　壁　長（約m）	形　状	主柱数	カマド方位
7	6.3 × 7.0	方　形	4	西（中　央）
8	5.0 × 5.0	方　形	8	東（北　寄）
9	5.8 × 5.8	方　形	6	西？
10	4.5 × 4.5	方　形	6	東（中　央）

8,9,10号跡の関係は8号がふるく，ついで9号がつくられ，しかも9号は火災に遭いそのまま放置されていたもので，その後9号跡の大部分と8号跡の一部にかけて10号が建てられた。したがって9号跡に遺っていた小屋材（種類？）は10号跡の外側は当時のままの状態であった。



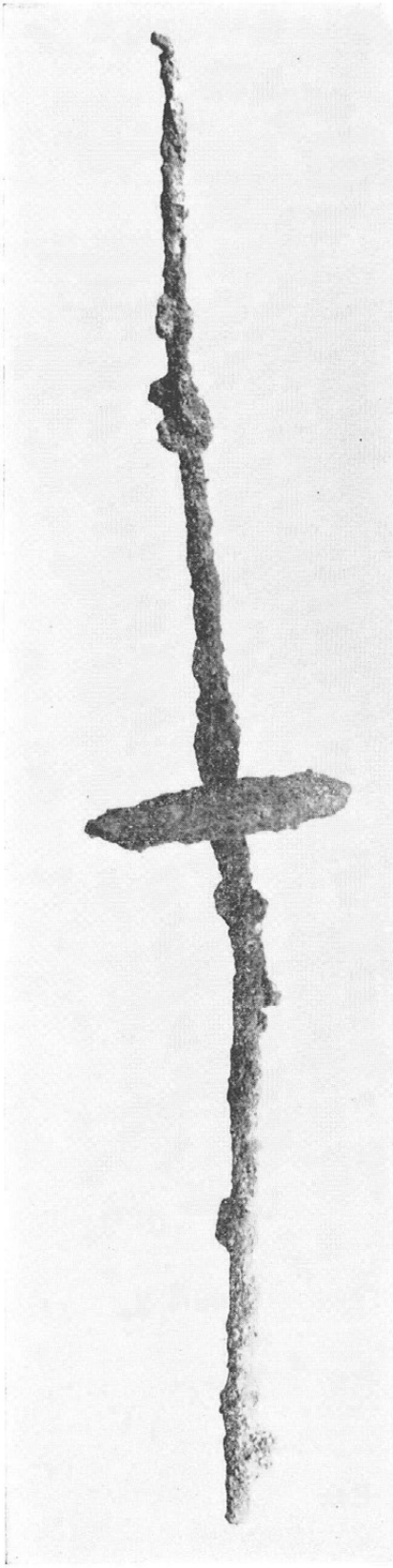
D 地 区 高 床 建 造 物 遺 構

鉄　鏃　（原寸）

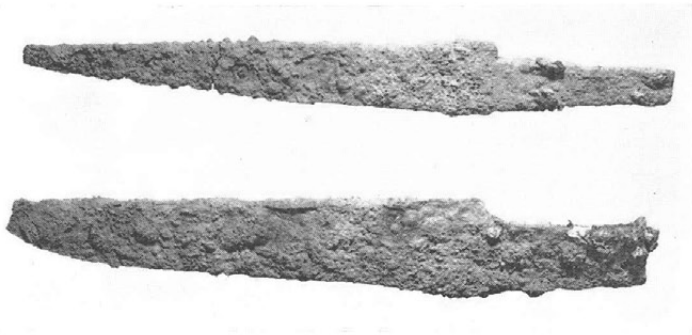


鉸具（かこ）　帯先金具
銙（か）（丸鞆）　石帯の石（丸鞆）　（原寸）

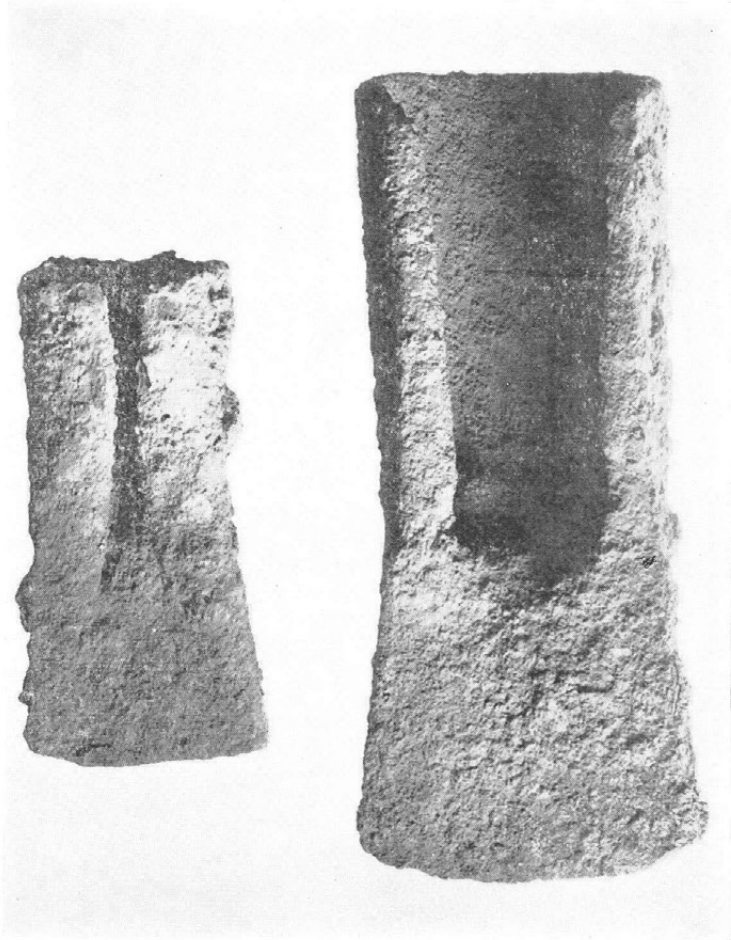
須　恵　器　¾



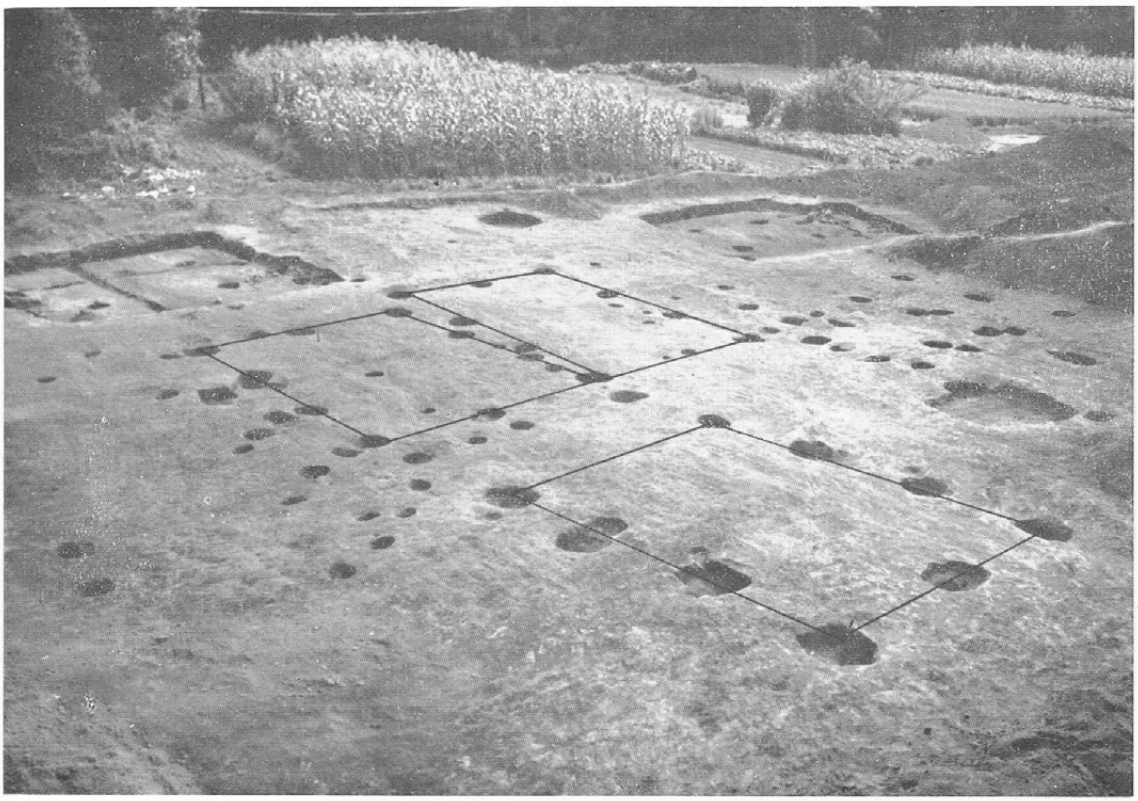
紡 錘 車（鉄製） 長 29.5 cm



刀 子 ⅓



鉄 斧 （原寸）



D地区高床遺構と11号（左）14，15号住居跡（右）

掘立柱の建造物跡らしき掘形は住居跡の西に南北線上に並んでみられそれに続くと思われる西側部分は発掘土を積んだため明瞭にし難い。

遺物には7号住居跡から土師器，須恵器のほか鉄斧，青銅製帯金具，土錘等が発見された。8号跡からは土師器，須恵器のほか鉄製鎌，灰釉陶器片が多数発見された。

7号と10号住居跡のカマドは石を心としていた。8号と9号は現存せず，8号住居跡のカマド跡と思えるところに焼土の堆積が顕著であった。

D地区は25×35mの範囲を発掘し，5軒の住居跡と6棟以上の掘立柱の建造物跡を確認した。

住居跡5軒は，

No.	四　壁　長（約m）	形　状	主柱数	カマド方位
11	6.0 × 6.0	方　形	4	東（中　央）
12	4.5 × 4.2	方　形	不　明	東(中央)？
13	4.6 × 4.3	方　形	不　明	東（中　央）
14	4.2 × 4.3	方　形	不　明	東(中央)？
15	6.0 × 5.1	方　形	4	西（中　央）

であった。これらのうち12，13号と14，15号が重複し，12号がふるく13号が新らしい。また14号がふるく15号が新しいという建造順序が認められた。掘立柱の建造物跡は11号住居跡の北方に展開していた。それらについて以下計測値を表示する。

No.	桁　　行		梁　　間	
10	3　間	約 22.5 尺	2　間	約 14.6 尺
11	3　間	約 19.5 尺	2　間	約 15.0 尺
12	3　間	約 19.5 尺	2　間	約 13.0 尺
13	2　間	約 18.0 尺	2 間？	約 13.0 尺
14	2　間	約 14.6 尺	2 間？	約 11.5 尺
15	2　間	約 13.0 尺	2　間	約 12.0 尺

以上のうち一応建造物としてまとまるものは10，11，12号跡で他は小形建造物らしく，掘形から考えてそれぞれひとつの建造物と考えられよう。

遺物は，11号では土師器，須恵器のほか竪穴西側中央部の上から石帯の丸鞆1個を発見した。12号からは土師器，須恵器，13号からは土師器，須恵器のほか鉄鏃，鉄釘が発見された。14号からは土師器，須恵器のほか鉄斧が発見され，15号では土師器，須恵器のほかに砥の発見があった。

む　す　び

以上，発掘調査したA，B，C，Dの4地区について略述したのであるが，遺物としては全般に灰釉陶器の破片が出土したさらに各住居跡内からは鉄塊が少しづつ出土し，鉄製品の多数の出土とともに遺物としての一つの特色をもっている。

今次調査では竪穴式住居跡とともに掘立柱跡が多く発見され，住居跡との併存関係，配置などについて種々の問題が提起された。ことにB地区においては16号住居跡の廃屋後，掘立柱の掘形が住居床面に掘られ，時間的前後関係を把握し得た。またB地区16号住居跡北方の掘方群の掘方内の埋土には土師器，須恵器，灰釉陶器片，小石などの破片が多数包含されていたことは16号住居跡廃屋後のものであり，掘形のつくられた時期にそれら土器類を柱の根じめ代りに埋め込んだものと考えられる。

B地区D地区の掘立柱跡は3間×2間といった倉庫に適した建物と考えられ，しかも掘立柱という点から高床倉庫として間違いないと考えられる。すなわち，これらの建造物跡からは住居跡内から出土するような土器類などの遺物が出土しないこと。カマド跡などが全く見あたらなかったことから住居跡とは考え難いものであった。しかもD地区にみるような3間×2間の高床建造物が相接して建てられたことは3棟が同一時期の建立ではなく時を異にして建てられたものであり，そこには時間的な厚味を考えねばならない。

遺物のうち，鉄製紡錘車の発見は，この部落内で養蚕が行われ絹糸から絹織物がつくられていたことを語っている。また，帯金具や石帯の丸鞆の発見などから推してこの集落内には時に衣冠束帯に身を飾るという人物の居住したことも判明した。此の様な片々の遺物から考えるに，この集落は経済的にかなり高度な生活を営んでいたものと思えるし，その時代も奈良時代より，さらに下降した平安時代，それも10世紀中頃であろう。いづれにせよ，今次調査の結果，此の段丘上には大集落が営まれ，しかもそれがかっての諏訪郡手良郷の一部であったとするも間違いではなかろう。

昭和42年12月20日
長野県伊那市教育委員会
国士舘大学考古学研究室